

●第18回審議会での意見まとめ

資料1

No.	①3地区複合案について	②西部地区の学校配置について	③御岳山の通学問題について	④小規模特認校等について	⑤通学支援・答申後対応	⑥人口推計・将来展望	⑦教育の質・学校の意義
1	・持続可能性のない案は受け入れてはいけない。単独案は33年後に再検討が必要となるリスクあり。複合案は最も安定的で適正規模を維持できる。	—	—	—	・答申を出したら終わりではなく、地域の声を教育委員会として丁寧に聞いていくことが重要。	・33年先を見据えた持続可能性を重視する必要がある。	—
2	・適正規模があつてこそ、社会性・協働的な学びが成立する。複合案の方が質の高い学びに対応できる。	—	—	・特認校を残す、特定地域選択制を導入することで通いづらい地域の子供にも選択肢を提供できる。	—	・「地域」の概念をより広い範囲で捉え直す時代が来ているかもしれない。	・「青梅の教育ってここが素敵」と打ち出せる新しい教育の姿を提示する必要がある。コミュニティスクール・小中一貫教育の充実も必要。
3	・3地区複合案が望ましい。	—	—	—	—	—	—
4	・個別の再編より将来を考えると複合案で進めるしかない。	・各地点平均所要時間が最短となり、道路幅も広い第五小学校の位置が望ましい。	・52分だが乗り継ぎ待ち含む実態は約75分と深刻な課題。	—	—	—	—
5	・将来的な人数を考えると複合案（第四小）が良いと個人的には思う。	—	—	・成木小の特認校約100名を踏まえ特認校を残す場合は小曾木地区が望ましい。	—	—	—
6	—	・親の立場から第五小学校の位置が望ましい。西中学校バス停周辺は歩道が狭く小学1年生の通学路として安全性に懸念。	・御岳山からは第五小学校の方が若干長くなる点は気になる。	—	—	—	—
7	・最終的にはこういう形になると思うが御岳山の通学環境の厳しさを懸念。	・個別案では第五小学校または西中学校の位置が良い。多摩川を渡る通学は大変。	・雪でのケーブル遅延など、実態は75分を超える場合もある。小学校1年生への長距離通学に強く疑問。多摩川を渡る通学は成木・小曾木より条件が悪い。	・地域住民は学校をなくしたくない思いが強い。災害時の避難場所としての機能も重要。	—	—	—
8	・最終的には複合案が良いと思うが人口推計の実現可能性に疑問が残る。	—	—	—	—	・推計が実現するか不確か。青梅市が人を集める魅力を高める政策が必要。青梅駅周辺の活性化に期待する。	・川遊び・虫取りなど自然体験ができる地域密着型教育の価値も考慮すべき。
9	・将来を考えると複合案が必要とは理解する。自分の子供が通った学校がなくなる寂しさも率直に感じる。	—	・徒歩時間が長い地点が多いことに衝撃を受けた。	—	・自家用車、放課後デイサービス車両による送迎受け入れ体制の整備が必要。	—	—